

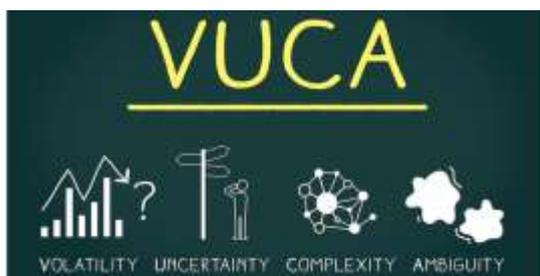


新しい年を迎えて

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

新年、あけましておめでとうございます。本来なら、新しい明るい気持ちでこの巻頭言を書いているところですが、緊急事態宣言が発出される事態となってしまいました。4月のように学校が休校となることはありませんが、教育活動が再び制限されることは十分に想定されます。学校では引き続き子どもの感染防止に全力を尽くし、安全な学校としていきます。また、解除が長引けば卒業を迎える6年生への影響も大きくなります。今までに経験したことのない事態が世界規模で起こる時代となったことを踏まえて、学校運営をしなければならないことを痛感しています。

さて、4月からは新しい学習指導要領に基づいて学校の教育活動が始まっていますが、文部科学省では次の10年の教育を進めるための中央教育審議会が発足しています。一昔前は、その会の議事録が学校現場に回ってくるのにはかなりの時間を要していましたが、今は文部科学省のホームページに数日後には資料がアップされるようになりました。次の時代は、今回の新型コロナウイルス感染症対策のように、不確定な時代を切り開くために必要な資質・能力を育成することが求められます。その方向性を差し示すものとして、OECD(経済協力開発機構)の「VUCA」があります。



変動性を意味する言葉、**Volatility**
 不確実性を意味する言葉、**Uncertainty**
 複雑性を意味する言葉、**Complexity**
 曖昧性を意味する言葉、**Ambiguity**



VUCAはビジネスの世界でも取り上げられているようですが、教育関係では子どもたちの学びに着目しています。教師は教えるべきことはしっかりと教えます。子どもは単に教えてもらう側ではなく、それから先は学び方を身に付けて仲間と協働して課題を解決していくという道筋です。その力は国連の持続可能な開発目標につながっていきます。SDGsを小学校から意識して取り組んでいくことがとても重要となります。

2021年はまだまだ不確実性・変動性の中にありますが、学びを止めずに新しい取り組みを進めていきたいと考えています。先日、帝京大学の研修会で英語科の方と知り合いました。その方の知り合いがフィンランドで現地の学習指導要領の研究をされているとのことでした。フィンランドが2014年に策定した学習指導要領は、今の日本の目指すものと同方向性が同じで、特に日本にはない、「ワークライフスキルとアントレプレナーシップ」という力の育成が位置付けられています。私の拙い英語力では十分に理解できておらず、どこかで学びたいと考えていました。そこで、4月からオンラインでフィンランドと通訳をしてもらいながら話をしている場を得ました。起業家教育につながりそうな予感がしています。

